



さいとう健

——やっぱり、この男に!

自由民主党 衆議院議員

特集



自由民主

LIBERAL & DEMOCRATIC

発行所: 自由民主党本部
 定価1部110円(税込) 毎週火曜日発行
 住所: 〒100-8910
 東京都千代田区永田町 1-11-23
 電話: 03-3581-6211(代表)
 ホームページ: <http://www.jimin.jp/>

さいとう健
 ホームページ
 はこちら→
www.saito-ken.jp



令和3年が幕開けました。新型コロナウイルスが猛威を振るい、二度目の緊急事態宣言も出されるような状況になっています。
 令和3年に臨む、さいとう健さん（自由民主党千葉県第七選挙区支部長）にお話をうかがいました。

Q. まず、本年の抱負をうかがいます。

A. 一にも二にも、新型コロナウイルスによる感染を何としても収束させねばならないということです。
 その上で、東京オリンピック・パラリンピックが実現できればと。

Q. コロナとどう戦っていくのですか？

A. 未知のウイルスとの戦いですから、試行錯誤がある程度あっても仕方がない。とは言うものの、私は、感染拡大を防止し、医療崩壊を防ぐというのが最大の眼目で、経済への影響を最小限にするというのは、あくまでも配慮事項だと思っています。現政権は、コロナ対策と経済対策の両立と言っていますが、私には少々違和感があります。経済は重要な配慮事項ではありますが、これが膨みすぎて、肝心の最大の眼目が達成できなくなるということでは、元も子もありません。

Q. さいとう健さんは、新型コロナウイルス対策に、具体的にどうかかわっていらっしゃいますか？

A. まず、自民党の中で、コロナ対策本部というのがありまして、政府が対策を打ち出す際にはこの本部で大いに議論します。そこで、発信することは言うに及ばず、実は今、私は、衆議院の予算委員会の理事を務めておりますので、対策を実行するための来年度予算案を、国会で通すという現場の仕事をしております。
 来年度予算には、参考(裏面)にありますような、重要なコロナ対策予算が盛り込まれておりますので、まさに、その実現のために汗をかいております。

Q. 話が変わりますが、昨年一年で、コロナ以外で、さいとう健さんのお仕事で印象に残っているのは何でしょうか。

A. 衆議院憲法審査会幹事をしているものですから、議論ぐらひは国会でもやろうではないかと様々努力しましたが、結局進まなかった。残念な気持ちでいっぱいです。

(中面につづく)



関さんの県政とさいとう健の国政といい連携で前進していこうと思っています。

関 政幸(せき まさゆき)さん

土気南中学校、千葉東高校、早稲田大学商学部卒、2005年 司法試験合格(弁護士)、2010年 自民党の公募に合格し、翌年 千葉県議会議員に初当選、以後、3期連続当選。
 県議会では、農林水産常任委員長、千葉県がん対策審議会委員、総務防災常任委員長などを歴任
 趣味: お笑い鑑賞、スノーボード、筋トレ
 家族: 妻、娘、マロン(犬)
 好きな食べ物: カレーライス
 著作: 「民法がこんなに変わる」など(自由国民社、共著)

『令和3年1月12日 毎日新聞朝刊 5面』

世界全体でカーボンニュートラル(温室効果ガスの排出量をゼロにする)ためには、排出量を現在の半分以上減らさなければならぬ。だが、各国で発生する二酸化炭素(CO₂)の量で見ると、日本は世界全体の3%。中国、米国、インドの3カ国が世界の排出量の5割になる。菅義偉首相が宣言した2050年までのカーボンニュートラルは、死に物狂いでその3割を無くす努力を要するということだ。私は首相の宣言を高く評価したい。日本の産業競争力を成長させる好機とすべきだ。ただし、思い切ったテ

2050年の
社会像
脱炭素化

技術磨き 世界に貢献



さいとう・けん 2009年衆院選で初当選し、4期目。環境政務官、副農相、農相などを歴任した。元通産官僚で、資源エネルギー庁での勤務経験もある。

ヤレンシにはコスト増などの「痛み」も伴う。日本では地球温暖化(温室効果ガスの排出)を抑制する。環境面から捉えがちだが、産業・経済面から見ても大きなテーマだ。CO₂排出量を減らすだけでなく、国益を追求する温暖化対策という考え方も必要だ。政府が2019年12月25日に発表した「グリーン成長戦略」とその実行計画は、大変意欲的なものだ。CO₂削減のために産業や家庭で電化が進む一方、電力需要が今より30〜50%増加する。しかし、50年には発電量の約50

自民 斎藤健元農相

60%を再生可能エネルギーでまかなうという。グリーン産業で勝つか負けるかで、日本の経済の将来が決まると言っても過言ではない。成長戦略と実行計画からその危機感が感じられる。自動車では、30年代半ばまでに乗用車の新車販売を全て電動車にするとしている。非常に高い目標だが、絶対に負けられない分野だ。中国も欧州も意欲的な計画を打ち出しているし、バイデン次期米大統領も出している。福島県浪江町で「福島水

素エネルギー研究フェイルド」が2022年に完成し、10ギガワット規模で稼働している。世界最大級という触れ込みだったが、欧州連合(EU)は30年までに40ギガワットの製造能力を持つ計画で、波江の4000倍だ。水素エネルギーでも油断ならぬ。また、洋上風力発電の技術は、欧州に大きな差をつけてしまっている。政府は夏から秋にかけてエネルギー基本計画を見直し、地球温暖化対策計画を策定していくことになると思う。ぜひ思い切ったものを打ち出してほしい。日本は良い技術を持っていて、産業の成長につながる。日本の所得となるように展開することが苦手な面があるように思う。例えば、1983年に私が通産省(現・経済産業省)に入省した時、太陽光発電などの再生可能エネルギー技術を

開発するプロジェクト「サンシャイン計画」が冒険半ばで進められていた。当時、日本には性能の良い太陽光パネルがあった。発電コストも大幅に下がった。しかし、世界は中国製のパネルであふれかえっている。こうした経験があることを重く受け止めて、50年までの産業政策をどうするか、打ち出す必要があるのではないだろうか。日本の努力は自国のCO₂排出を減らすことにとどまっていけない。むしろ技術を磨き上げて産業競争力を付け、大量に排出している中国などのCO₂削減に日本が貢献をしていくことにこそ意味がある。

メルマガ **さいとう健**

- ◆氏名・住所の登録不要。
- ◆国政課題、地元の話題について、さいとう健の考えをお伝えします。
- ◆返信をすれば、匿名で意見を伝えられます。
- ◆ホームページからご登録いただけます。

あなたのご意見、お聞かせ下さい。

後援会
入会は
コチラ

さいとう健 後援会事務所(流山おおたかの森駅北口すぐ)
 〒270-0119
 流山市おおたかの森1-5-2セレーナおおたかの森2階
 TEL: 04-7190-5271 FAX: 04-7190-5272 E-mail: info@saito-ken.jp

さいとう健 国会事務所
 〒100-8981
 千代田区永田町2-2-1衆議院第一議員会館822号室
 TEL: 03-3508-7221 FAX: 03-3508-3221



行事・イベントへの参加も新しい行動様式で。



コロナに関する客観的な情報や今後の見通しを説明しました。



衆議院の予算委員会で、子ども宅食への政府備蓄米の提供を厳しく求めました。
 詳しくは、<https://www.kokkai.ndl.go.jp/#/detail?minId=1230526100420201125¤t=1>をご覧ください。



《 ミニプロフィール 》

昭和34年、小さな写真屋に生まれる。
 大学時代は、ハンドボール部のキャプテンとして活躍。
 零細企業に育ったこともあり、中小企業を担当する通商産業省に入省。日米交渉や行政改革、地方行政(埼玉県副知事に出身)などに携わる。平成18年衆議院千葉七区補欠選挙にて公募により選ばれるも、惜敗。平成21年衆議院総選挙において、初当選。4期目。農林水産大臣等を経て、現在、衆議院予算委員会理事として望ましい予算措置に向け奮闘中。
 [趣味] ハンドボール、カラオケ、読書、映画
 [好きな食べ物] ラーメン、焼肉(特にカルビとハラミ)
 [尊敬する人物] 高杉晋作、原敬、鈴木貫太郎

YouTube
 さいとう健 Youtubeチャンネルはこちら↓
<https://www.youtube.com/channel/UCepmkUbJMHtfKGVPkxN7bag>

さいとう健が予算委員会で取り組んでいるコロナ対策

参考

さいとう健は、下記のコロナ対策が、感染症との闘いの最前線に立ち続け、献身的に尽力している医療や介護などの現場の方々をきちんと支援しているのか、注視し、必要があれば、臨機応変に、即座に必要な支援ができるよう、絶えず、政府に働きかけていきます。

1. 医療体制の確保と医療機関への支援

(1) コロナ診療の重点医療機関の病床の確保

新型コロナ患者の受入病床と人員を確保するため、重症者病床は一床につき1,500万円、その他の病床は一床450万円を補助して来ましたが、緊急事態宣言が発令された都道府県については、新たに確保した病床一床につき、さらに450万円が加算されることとなりました。引き続き、軽症者の宿泊療養施設の確保についても支援します。

(2) 重点医療機関への医師や看護師の派遣への支援強化

医師や看護師をコロナ患者受入医療機関に派遣した場合、医師は一人1時間当たり7,550円を15,100円に、看護師は2,760円を5,520円に、補助額を倍増することとなりました。

(3) 医療機関での院内感染防止や薬局での感染防止のための取組

① 定期的な消毒、待合室混雑緩和、レイアウト変更などへの実費を補助

2次補正予算で、病院には200万円+5万円×病床数、薬局には70万円を既に補助しましたが、3月末までに新たに病院に25万円+5万円×許可病床数、薬局には20万円を補助します。

② 発熱患者を対象とした外来の検査医療機関に院内感染防止費用を実費で100万円まで補助

③ 小児科と回復された患者の転院支援

経営難がより深刻な小児科診療の診療報酬は概ね2倍に、コロナから回復されても引き続き入院が必要な方の転院を受け入れた医療機関での入院診療について、診療報酬を3倍に引き上げます。



コロナ関連の法案も多く審議される中、議員立法の草案責任者として国会答弁。



西村経済再生担当大臣へコロナ後の日本経済の在り方について提言。

2. PCR検査体制の強化など

(1) PCR検査の保険適用時の自己負担分を公費負担

(2) 抗原検査キットの増産のため、国の買い上げを実施

(3) PCR検査機関のPCR検査機器設備の整備支援

(4) 民間のPCR検査機関の検査精度確保のための外部精度管理調査の実施

現在、重症化しやすい高齢者が入居されている施設に対して、入所者や介護従事者で発熱がある方は必ずPCR検査を実施し、陽性者が出た場合には、全員の検査を実施しています。また、高齢者施設で自費でPCR検査を実施した場合には、費用を補助しています。5人以上のクラスターが発生している地域(保健所単位)では、高齢者施設や医療機関、飲食店の優先順位で、PCR検査を実施しています。

保健所の負担を減らすため、応援派遣可能な保健師などを3,000名に増員し、必要なところにはすぐ派遣できる体制を作ります。

3. ワクチンなどの接種体制確保

(1) ワクチン接種費用の無料化とワクチン数量確保

2月中のワクチン接種を開始するとともに、本年前半には全ての国民に提供できる数量の確保をした上で、ワクチン接種費用を国費負担し、希望する方が全員、無料で接種できる体制を作ります。

(2) 治療薬開発

安全性が確保された有望な治療薬を、国が買上げ、国民の皆さんに届くようにします。また、革新的な医薬品や医療機器の開発を支援します。

(3) ワクチンの安全性確保

世界で開発が進むワクチンは、安全性・有効性の確認が最優先です。わが国では製造メーカーの試験に加え、国立感染症研究所で国家検定を行っています。今回、感染症対策の司令塔である、国立感染症研究所の体制を強化します。

4. 感染防止対策の徹底

(1) 飲食店等への協力金のための交付金を1.5兆円増額

飲食店等に対して、自治体が営業時間短縮要請を機動的に行えるよう、自治体への支援金を増額しています。

(2) 空港の水際対策を強化

本年1月14日より、中国や韓国からの入国者も含め、入国者に14日間の待機や公共交通機関不使用、位置情報の保存などを誓約していただき、違反者は氏名の公表や強制退去の対象となることとなりました。

(続き)

そのほかでは、実は、自民党の若手議員と、日本企業が、なぜアメリカや中国などの企業の後れを取るようになったのかという要因について、数か月にわたって議論し、レポートにまとめたのが、自分としてはよくやったなと印象に残っています。

Q. 興味深いですね。一体その要因は何だったのですか。

A. 一言でいえば、日本の一流企業というのは、トップが高齢化しており、かつ、在任期間が短く、しかも、生え抜きで男性ばかりで同質性が異常に強い、この辺に原因があるのではと。

要するに、若者や女性、よそ者に、もっと思い切っ
てやらせないで勝てないよということです、ざっくり言
えば。この点について、数々のデータを駆使して議
論を展開しました。

Q. あと、昨年の予算委員会の質問で、さいとう健さんは、菅総理が提言した2050年の温暖化効果ガスの排出を全体としてゼロとする目標について、評価されてましたよね。

A. そうですね。かつて、資源エネルギー庁で電力関係の課長をしていましたものですから、大変関心があります。今回、2050年の日本の電力供給のイメージが提言されているのですが、電力の課長をしていた私の目から見て、それは別世界が来るというぐら
いのインパクトのあるものでした。詳しくは、一番後ろのページの毎日新聞のインタビュー記事をご覧ください
できればと思います。

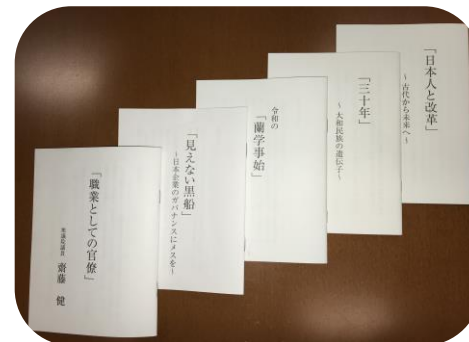
Q. ありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



発声を伴わないバンドコンサートを激励。屋内イベントの再開には時間がかかります。



コロナ禍で厳しい状況が続く中小企業の現場を視察し、必要な支援をヒアリング。



自身の考えをまとめた小冊子が5冊になりました。右から「日本人と改革」、「三十年」、「蘭学事始」、「見えない黒船」、「職業としての官僚」です。
御関心のある方は御連絡いただければと存じます。

コラム

「こども宅食」に政府備蓄米を実現！

昨年11月25日の衆議院予算委員会におきまして、さいとう健は、コロナ禍で苦しんでいる子育て家庭などに、ボランティアで食事を運んでおられる方々を応援すべく、政府の備蓄米を提供すべきであるという質問をいたしました。

その結果、このたび、一定の条件のもとに、備蓄米の提供が実現することとなりました。

小さな一歩ではありますが、少しでも元気になっていただけたらと念じています。



公明党角田秀穂さんから、コロナ禍の支援策について様々なご意見を頂いており、共々にいい連携でやっていきます。